

前回は、中国の不動産市場がバブルの様相を呈している」と書いた。バブルに踊る市場を鎮めるには、安易な借入れがでないよう、金融を引き締めることが重要だ。銀行の不動産融資の総量規制、借り手の自己資金比率の引き上げなどさまざまな方法がある。しかし、バブルへの警告として一番効果があるのが金利の引き上げである。

人民元の切り上げ

東京大教授 伊藤 隆敏



値上がり期待だけで不動産を購入する人たち（投機者）にとっては、他の人も投機者である限り、投機を続けることが合理的だ。

平均的な購入者の年収比でどんどん高くなってくると、次第に売りに抜ける時機を考え始める。しかし、他の投機者が購入を続けているうちには、バブルの踊りを止めない。中央銀行による金

利引き上げは、皆にバブルの終わりが近いと分かれるシグナルだ。

ところが、中国は、通貨を対ドルで固定しているの、米国より高い金利を付けることは、資本流入をさらに促し、より多くの流動性が国内に供給されることになり、バブルが止まらない。

要であり、輸入消費財を安くすることで、消費者の生活水準も向上する。

良いことづくめの人民元の切り上げに中国当局は強く抵抗している。米当局が切り上げを勧めれば勧めるほど、中国当局は外圧に屈しない、と反発する。そして米財務省による半年に1回の「為替操作国」認定の期日（4月15日）が迫ってきた。金融危機の後遺症に苦しむ米国内では、今度こそ中国を為替操作国に認定せよ、という世論が高まっている。